

佐倉市



佐倉の秋祭り

祭禮日：10月第2金、土、日曜日
佐倉の秋祭りは五穀豊穣に感謝する秋祭りであり、江戸時代に土井利勝が佐倉城を築くと、佐倉城大手門のすぐ近くにある麻賀多神社は佐倉藩の総鎮守となり、その神社の祭禮は歴代藩主の加護の下に発展しました。佐倉囃子に合わせた「えっさのこらえっささっさ」の掛け声、踊りは佐倉ならではのものです。



上町

やまとたけるのみこと
日本武尊

人形師：仲秀英(二代目)
制作年：嘉永3年(1850年)



酒々井町



麻賀多神社の祭礼

祭禮日：10月14日、15日
酒々井町の下宿麻賀多神社は天喜[てんぎ]年間(11053～10518)(8501)の頃に酒々井村材村材とともに鎮座したと伝わっています。祭礼にはにせり山車人形を引き回されていたのですが、現在は、毎年21年を最後に引き回しはされています。



麻賀多神社

小野道風
せののちののち

人形師：仲秀英(三代目)
制作年：安政6年(1859年)



市川市



行徳の祭礼

祭禮日：10月上旬～中旬の日曜日
江戸時代から続く「神輿のまち行徳」を代表する祭礼で、それぞれの町で神輿を担ぎつなぐ神事です。行徳地区ならではの担ぎ方「行徳探み」が要所で見られ、今年はいよいよ両祭礼が同じ年に実施される予定です。



市川三丁目第一町

たけのうすくね
武内宿禰

人形師：横山朝之
制作年：明治28年(1895年)

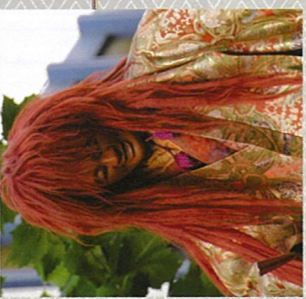


港区



赤坂水川祭

祭禮日：9月中旬
赤坂水川神社の例大祭「赤坂水川祭」は9月中旬に開催されます。毎年、複数の山車が複数日に渡って赤坂を巡行するのが特徴で、江戸時代から現存する貴重な江戸型山車と神社社務所による壮大な江戸絵巻の再現となります。



赤坂水川車保存会

猩々
しよしよ

人形師：不明
制作年：不明



荒川区

素盞雄神社天王祭

祭禮日：6月上旬
悪疫退散・除災招福・郷土繁栄を願う都市型祭礼です。天文10年(1541年)に神輿渡御が始まりました。3年に一度の御神幸祭では本社神輿が61ヶ町の氏子域を渡御します。二天権を左右に大きく振る「神輿振り」は大変勇壮です。近代までは多くの山車人形が巡行しました。



荒川中央町会

くまさからよはん
熊坂長範

人形師：古川長延
制作年：江戸末期から明治初期



稲田姫保存会

いなだひめ
稲田姫

人形師：古川長延
制作年：江戸末期から明治初期



入場無料

月曜休館

令和4年 6月25日(土)～7月10日(日)

後期

令和4年 6月4日(土)～6月19日(日)

前期

展示期間

※6月21日～24日は入替期間となりますが、入場は可能です。

開催時間 午前10時～午後5時
会場 成田市文化芸術センター
スカイランギヤラリー
(成田市花崎町828-111)
成田市観光プロモーション課
TEL 0476-20-1540
お問い合わせ



詳しい情報はこちら
https://www.nrtk.jp/news/20220423_1.html

《電車でお越しの方》
JR成田駅徒歩1分、京成成田駅徒歩2分
《お車でお越しの方》
成田ICから10分、富里ICから10分



ご来館の際は、マスクの着用など感染症対策にご協力をお願いします。



歴代のホスターや古写真に加え、ミニチュアの山車・屋台などを展示します。成田祇園祭の歴史を感じ、関心とご理解を深めていただければ幸いです。

成田祇園祭展



成田祇園祭

成田市



祭禮日：7月7日、8日、9日に最も近い金、土、日曜日
成田祇園祭は、五穀豊穣などを祈願する「成田山祇園会」と、成田山周辺の町内が一体となって行われる夏祭りです。令和3年(2021年)に300年の節目を迎えました。開催期間中の成田の街はお祭りのムード一色に染まります。成田山の賑やかなお囃子の音色や威勢のよいかけ声と共に成田山へ続く参道を中心に巡行します。夜間は、山車がライトアップされ、屋台は異なる姿に変わります。

川越市

川越まつり

祭禮日：10月の第3日曜日と前日の土曜日
川越まつりは、江戸天下祭を今に伝える山車行事です。精巧な人形を乗せた絢爛豪華な山車が、小江戸川越の象徴である蔵造りの町並みを中心に、曳行され、何台もの山車がすれ違うさまは、見るものを圧倒します。



三久保町

前期

みなもとらいこう
源頼光

人形師：磯貝 勝之
制作年：昭和24年(1949年)



末広町

後期

すみよしいのみようじん
住吉大明神

人形師：井筒 雅風
制作年：昭和44年(1969年)



脇田町

後期

とくがわいえやす
徳川家康

人形師：光本
制作年：昭和57年(1982年)



本庄市

本庄まつり

祭禮日：11月2日、3日
中山道の宿場町として栄えた本庄宿の総撰子、金鐘神社のお祭りです。精巧な彫刻や漆塗り、華麗な文様の総撰で飾られた絢爛豪華な10基の山車が、優雅なお囃子の音色を奏でながら市街地を巡行します。



本町

前期

しやつきょう
石橋

人形師：浪花屋七郎兵衛
制作年：不明



泉町

後期

たけのうちのすくね
武内宿禰

人形師：横山 朝之
制作年：明治28年(1895年)



照若町

後期

ももたろう
桃太郎

人形師：浪花屋七郎兵衛
制作年：明治33年(1900年)



沼田市

沼田まつり

祭禮日：8月3日、4日、5日
古くから「おぎよん」と呼ばれており、毎年20万人以上の入出で賑わっています。須賀神社、権名神社の両神社みこし、まんど(山車)、町みこし等様々な行事が行われます。大天狗面をかこしに仕立て、女性だけで担ぐ「天狗みこし」は迫力満点です。



下之町

前期

しばらく
曹

人形師：光本
制作年：平成25年(2013年)



西原新町

前期

かかみじし
鏡獅子

人形師：師星
制作年：昭和55年(1980年)



青梅市

青梅大祭

祭禮日：5月2日、3日
5月2日、3日に青梅街道を12台の山車が巡行するお祭りです。山車がすれ違うたびに見える「せり合い」が見どころです。



仲町

前期

しずかごせん
静御前

人形師：松雲斎徳山
制作年：明治5年(1872年)



石岡市

石岡のおまつり

祭禮日：9月15日と敬老の日を最終とする3日間
石岡のおまつり(常陸國郷社宮例大祭)は、関東の三大祭りの一つと称され、毎年多くの人々で賑わいます。毎年9月15日には「例祭」が行われ、敬老の日の前々日の土曜日からの3日間に「神幸祭」「奉祝祭」「還幸祭」が開催されます。



金丸町

後期

へんぎいでん
弁財天

人形師：古川 長延
制作年：江戸末期



桐生市

桐生祇園祭

祭禮日：8月第1金、土、日曜日
366年の歴史を誇る桐生祇園祭は、祭神を業妻鳴尊に延べ3日間行います。前夜は5代目神輿の出御、中日には神輿渡御、絆の曳き遣いや巨大祇園屋台の付け祭りや巨大山車を添えます。今年も残念ながら中止となりますが、是非来年こそ皆さまをお迎えしたいものです。



本町四丁目

後期

すきのおのみこと
素戔鳴尊

人形師：松本 喜三郎
制作年：明治8年(1875年)



栃木市

とちぎ秋まつり

祭禮日：隔年11月
江戸との舟運や、日光御幣使街道の宿場町として栄えた栃木市。往時のたたずまいを残す巴波川や蔵の街なみを舞台に、2年に一度、11月に、豪華絢爛な9台の山車と一対の獅子頭が華やかに市内を練り歩きます。



石町三丁目

後期

かんろうんちよう
関羽雲長

人形師：原舟月(三代目)
制作年：明治26年(1893年)



石町三丁目

後期

ちやうひよくとく
張飛翼徳

人形師：原舟月(三代目)
制作年：明治26年(1893年)



渋川市

渋川山車まつり

祭禮日：隔年8月中旬
19台の山車が中心市街地を巡行する渋川山車まつりは、350年の歴史を持つ渋川市最大のお祭りです。北関東一のあばれ山車として知られる曳き手同士のぶつかり合いが見所です。



中之町

後期

りゅうじんのまい
竜神の舞

人形師：横山 朝之
制作年：明治34年(1901年)



武町

後期

やえん
野猿

人形師：不明
制作年：不明



茅町

後期

かんこどり
謙鼓鶏

人形師：中西 重蔵
制作年：明治15年(1882年)

